
トイレのドア

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トイレのドア

【Nコード】

N26250

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

飲み会が開きとなり、ターミナルで解散となった。

飲み会がお開きとなり、ターミナルで解散となった。

二次会に誘われたが内田はうまく断り、脱出した。

内田は十分酔っており、これ以上付き合おうと帰ってから仕事ができない。

会社の仕事とは別に自宅で内職をしていた。

どこかで酔いを冷まそうと思い、喫茶店を探した。

地下鉄乗り場の近くにパーラーのようなものがあった。朝はモーニングを食べる客で混み合っているような店だが、遅い時間帯なので客はまばらだ。

テーブル席が開いていたので、どっかりと座った。安っぽい椅子だがクッションがあるだけまし。

個人の店なのも今時珍しい。ウェイトレスが注文を聞きにくるのも新鮮な気がする。

内田は内職がうまくいけば会社を辞めようと考えていた。飲み会やカラオケが苦手だし、社内で親しい人間もいない。それどころか嫌な連中ばかりなのだ。

内職は携帯電話用の画像を作る仕事だった。手間はかかるが単純作業で、おもちやでも作っているような感じだ。

大した収入にはならないが人手不足らしく、さばき切れないほどの原画が送られてくる。それを別の人間に振り、上前をはねれば会社の給料を軽く越える。

それをビジネス化すればいいのだ。しかし、会社を辞めるのは軌道に乗ってからだ。

内田はそんな夢を見ながらアイス珈琲をすすった。

アルコールがまだ抜けないのか、妙に大胆な気分が続く。

地下鉄の改札口が近いたためか、行き交う人々も多い。

内田は人の流れをぼんやり眺めているうちに尿意がきた。

通りと反対側の壁にドアがある。

内田は用心のため鞆を持って行くことにした。

ドアを開けると真っ暗だ。振り返ると入り口がない。すべてが暗闇だ。

内田はトイレがあることを疑った。この地下通りの店は公衆トイレを使うことになっている。自前でトイレを持っている店はない。

内田はそのことを思い出しながら意識を失った。

すぐにウェイトレスが内田を見つけた。物置の中で倒れ込んでいた。

急に立ち上がったので目が眩んだのかもしれない。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2625o/>

トイレのドア

2010年10月11日22時12分発行